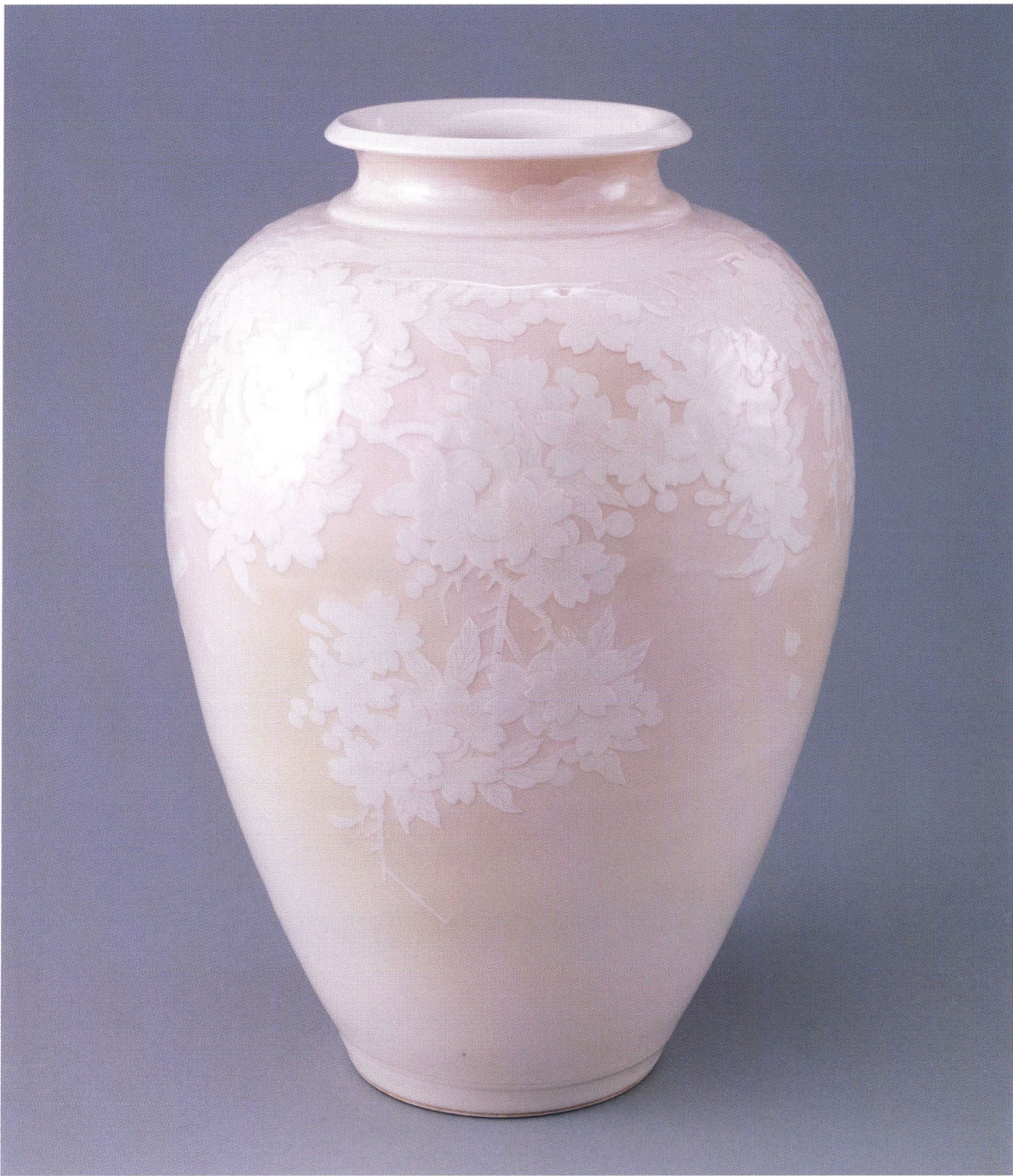


明治三十八年（一九〇五） 陶磁
径三〇・五、高四三・〇



春の麗らかな大気を連想させる、ほんのりと染まった薄桃色の地色を背景に、白一色で咲き誇る山桜を優美に表した花瓶。三代清風與平（一八五一〜一九一四）が、明治三十八年（一九〇五）に開催された日本美術協会第三十七回美術展覧会に出品し、三等賞銅牌を受賞した作品である。西洋で一世風靡したアール・ヌーヴォー様式のデザインが、日本陶磁にも大きな影響を与えていた時期に制作されたが、それまでの自身の制作の方向性を貫きつつ自らの持てる高い技術を発揮した代表作として知られる。本作の主題は、国学者の本居宣長が詠んだ「敷島の大和心を人間はば朝日に匂ふ山桜花」の歌意であると考えられ、清風がそれを山桜のレリーフと絶妙な色合いの釉薬で表現したことがわかる。

三代清風與平は播磨国印南郡（現兵庫県）に絵師の子として生まれた。田能村直入に師事した後、京焼の清風家の養子となり、明治十一年の二代清風與平没後、清風家を継いだ。内外の博覧会や展覧会で受賞を重ね、京都のみならず日本を代表する陶工として、同二十六年に陶磁界から初の帝室技芸員に任命された。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生 — 作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 72

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanjōmaru Shōzokan